7-4

要保存 必ずお読みください。

NAKAGIRI

タイタン柱上安全帯

胴ベルト型安全帯（1本つり・U字つり兼用）

取扱説明書

この度は、タイタン柱上安全帯をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この製品は、柱上、鉄塔などにおける電気工事、通信線路工事その他の高所作業において、作業者の身体を安定して保持し、かつ、墜落を防止するために使用するもので、労働安全衛生法第42条の規定に基づく「安全帯の規格」に合わせてサンコー株式会社が製造した安全帯です。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に ⚠危険・⚠警告・⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保管していただき、紛失された場合にはサンコー株式会社にご請求ください。

目　次

1. 各部の名称……1
2. 使用条件……2
3. 使用前点検……2
4. 装着方法……3
5. 使用方法……5
6. 保守・保管……10
7. 点検・廃棄……11
8. 部品交換……13
9. 交換の目安……13
10. 各部の強さ……14
11. お客様相談窓口……14

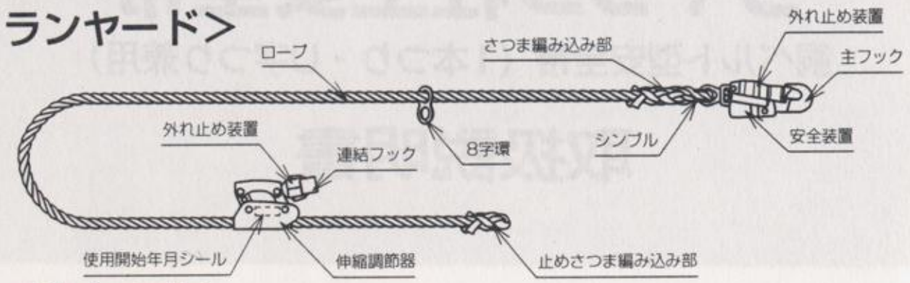
サンコー株式会社

1. 各部の名称　（図は一例を示す）

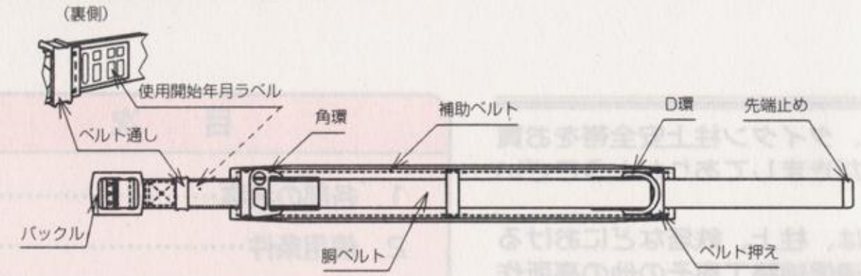
胴ベルト型安全帯（1本つり・U字つり兼用）

（図は一例を示す）

<ランヤード>



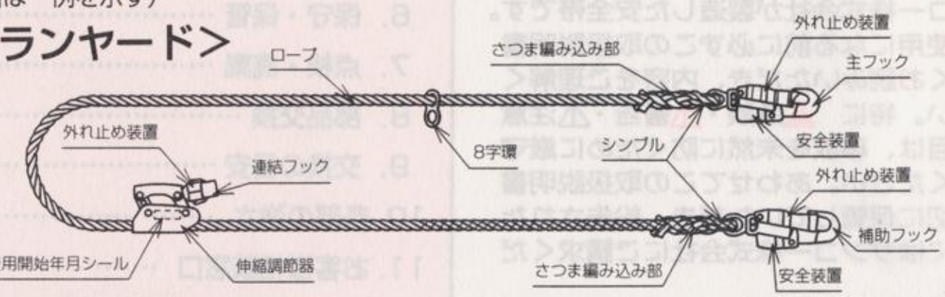
<ベルト本体>



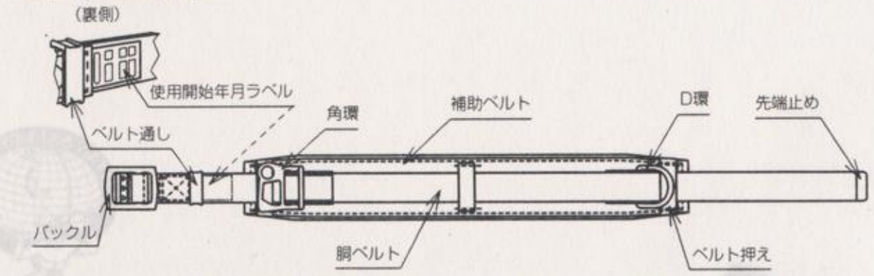
胴ベルト型安全帯（1本つり・U字つり兼用）常時接続型

（図は一例を示す）

<ランヤード>

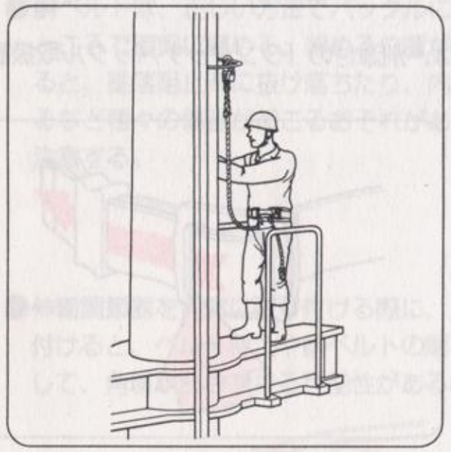


<ベルト本体>

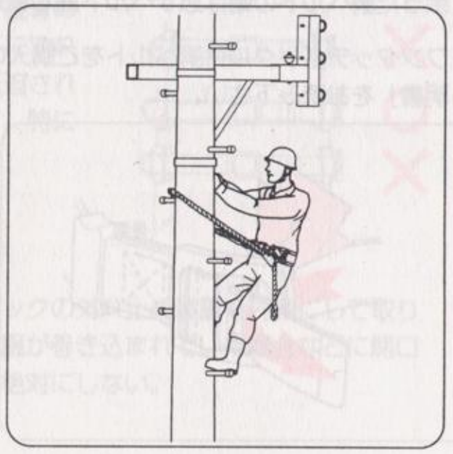


2. 使用条件

当製品は1本つりでもU字つりでも使用できる。



1本つり



U字つり

⚠警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください。

❶ 作業者の身体の保持及び墜落防止以外の目的で使用しない。

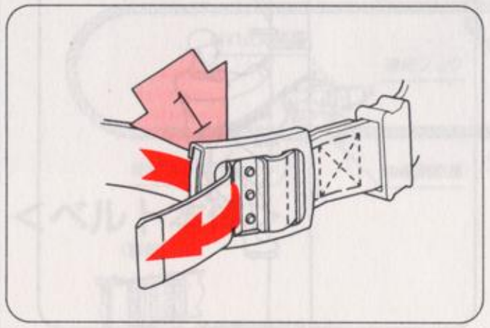
3. 使用前点検

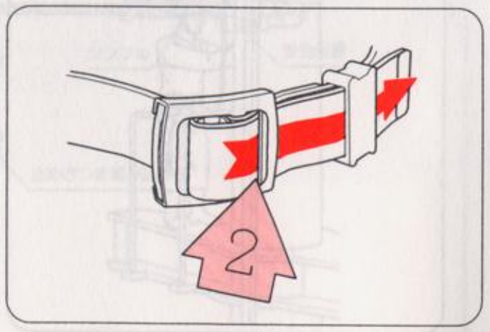
①装着前にこの取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
②装着前に必ず、この取扱説明書の〔7. 点検・廃棄〕の内容に従って各部に異常がないか点検する。
③新しい製品を使用する前に、使用開始年月ラベル（〔9. 交換の目安〕参照）に必要事項を必ず記入する。
④装着後、地上においてU字つり状態で体重をかけ、各部に異常がないか点検する。

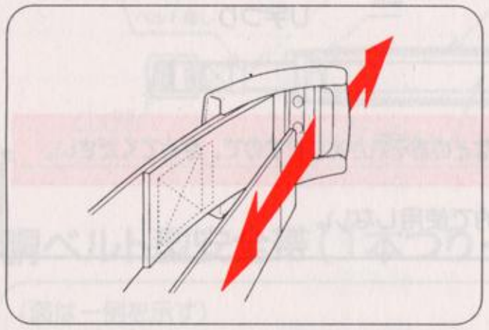
4. 装着方法

①安全帯の補助・胴ベルトは、角環が身体の左側、D環が右側にくるようにして腰骨のところに装着し、バックルに刻印された①、②の順に胴ベルトを通し確実に締める。
余った胴ベルトの端は必ずベルト通しに通す。

※ワンタッチバックル付胴ベルトをご購入の場合は、別添付の「ワンタッチバックル取扱説明書」をお読み下さい。

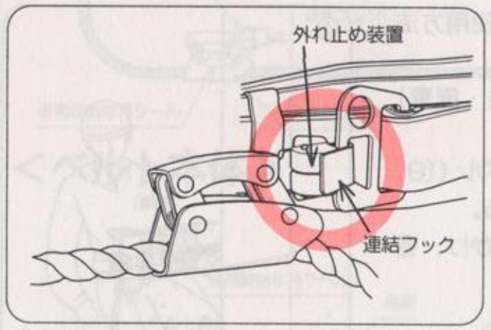




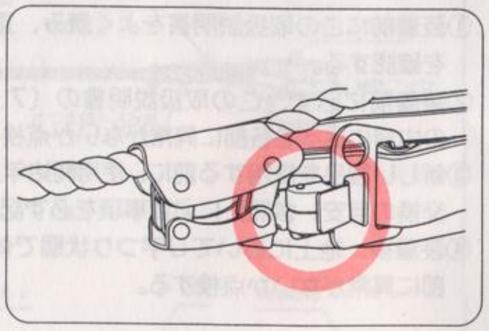


※バックルへの胴ベルトの出し入れは、バックルに先端止め金具がなるべく当らないように、バックルに対して胴ベルトを平行気味にして出し入れする。

②伸縮調節器は連結フックの外れ止め装置が外側になるようにして角環に掛け、ベルトの端や作業服が巻き込まれていないか、外れ止め装置が完全に閉じているかを確認する。



ロープ下側式

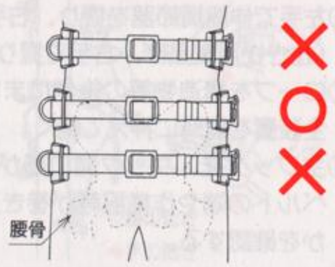


ロープ上側式

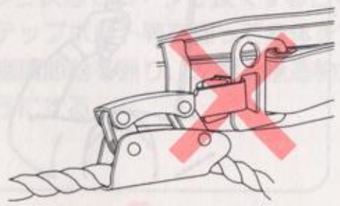
（ロープ下側式を上側式の方法で、ロープ上側式を下側式の方法で角環に取り付けると、4ページ ⚠警告②の誤った掛け方になりますので、しないでください。）

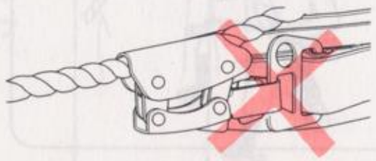
⚠警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

❶胴ベルトは、正しい方法でバックルに通し、腰骨のところで確実に締める。締める位置が上や下にずれると、墜落阻止時に抜け落ちたり、内臓が圧迫されるなど種々の傷害が起こるおそれがあるので、特に注意する。

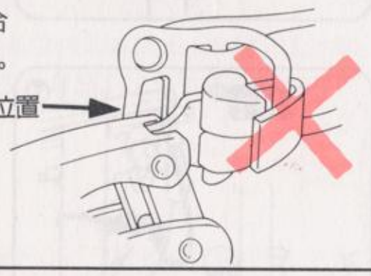


❷伸縮調節器を角環に取り付ける際に、連結フックの外れ止め装置を内側にして取り付けると、ベルト押えや胴ベルトの端・作業服が巻き込まれていた場合などに開口して、角環からはずれる可能性があるので、絶対にしない。





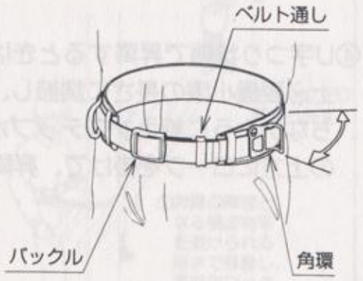
❸右図のような角環の付いた安全帯を使用される場合は、右図のような伸縮調節器の取り付け方はしない。



⚠注意　安全にお使いいただくためにお守りください

❶角環の位置は、身体の真横より前方に来ないようにする。
角環が前方に来ると、1本つり使用時の墜落阻止時に、背骨に強い負担がかかる。

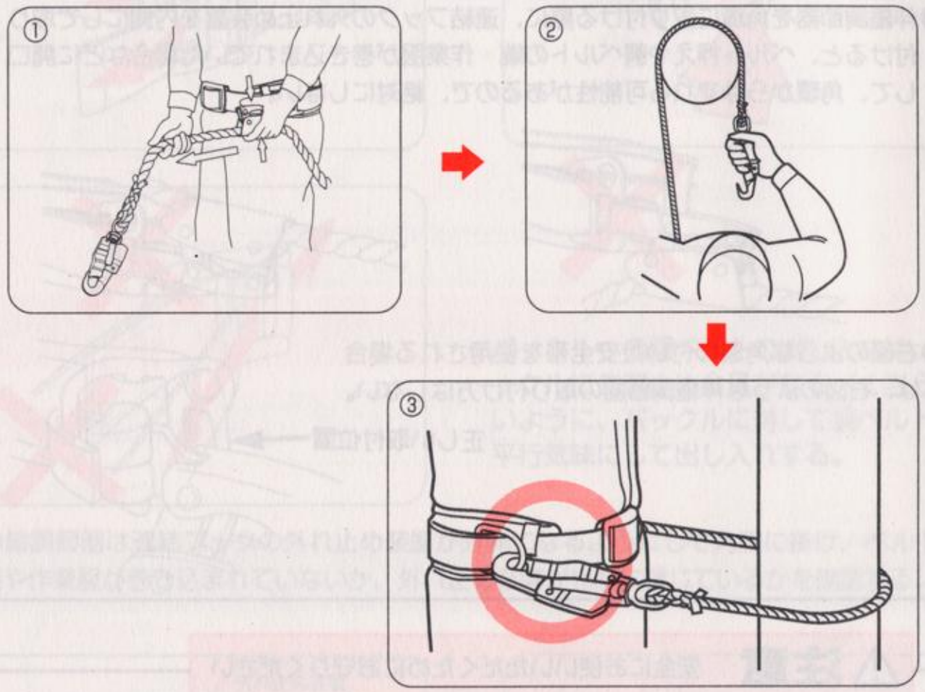
❷使用者のウエストサイズ（胴まわりの大きさ）が大きいため、胴ベルトを正しくバックルに通した後のベルト余長がベルト通しに届かない場合は、そのまま使用してはならない。(スタンダード品よりも胴ベルトの寸法が長い安全帯を購入・ご使用ください)



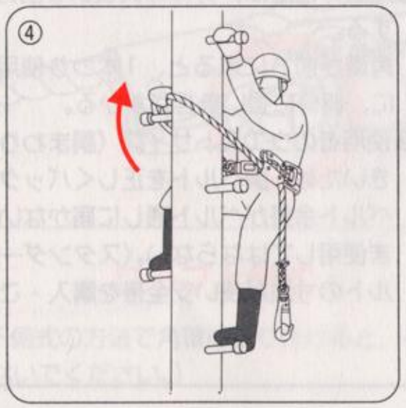
5. 使用方法

U字つり使用の場合

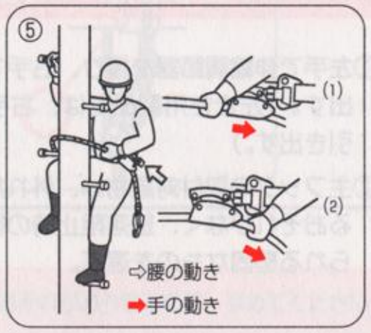
①左手で伸縮調節器を握り、右手でロープを引き出す。
（左きき用製品は、右手で握り左手で引き出す。）
②ロープを構造物等の後側にまわして、ロープ先端部の主フックを、外れ止め装置と安全装置を同時に押えて開く。
③主フックを、フック開口部が内側になるようにして安全帯のD環に掛けて閉じた後、ベルトの端や作業服等が巻き込まれていないか、外れ止め装置が完全に閉まっているかを確認する。



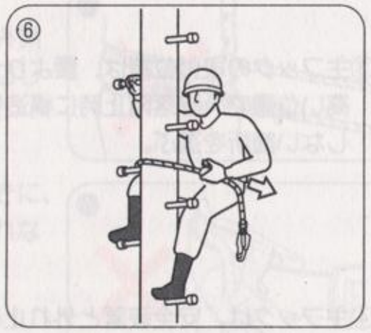
④U字つり状態で昇降するときは、ロープを昇降上必要最小限の長さに調節し、ロープが滑り落ちないように絶えずステップボルト等の突起物の上方にロープを掛けて、昇降する。



⑤U字つり状態でロープを短くするときは、下の(1)、(2)のいずれかの方法で行う。
(1)右手でステップボルト等を握って身体を支え、左手でロープを伸縮調節器にまっすぐに押し込むようにしながら、左腰を構造物に近づけるようにする。
(2)右手でステップボルト等を握って身体を支え、伸縮調節器後方のロープを引っ張り出すようにしながら、左腰を構造物に近づけるようにする。



⑥U字つり状態でロープを長くするときは、右手でステップボルト等を握って身体を支え、左手で伸縮調節器を握り、左腰を構造物から遠ざけるようにする。



⑦U字つり状態で昇降するとき、他の構造物が傷害になり一時的にロープ先端の主フックを掛け替えする必要が生じた場合、墜落を防止するために常時接続型では、主フックをD環から外す前に、補助フックを必ず適当な取付対象物に掛ける。
＊常時接続型以外は補助フックが付いていないので、1本つり用ランヤード（別売品）を使用して、主フック掛け替え時の安全を確保することをお勧めします。1本つり用ランヤードの使用方法については、1本つりランヤードに添付の取扱説明書をお読みください。

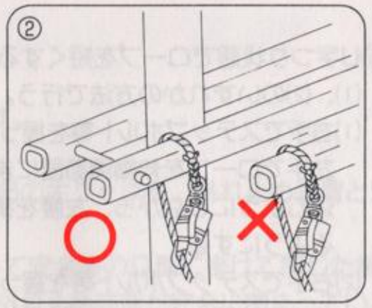
⑧徐々に体重をかけ、異常がないことを確認してから、手を離し作業を行う。

使用方法

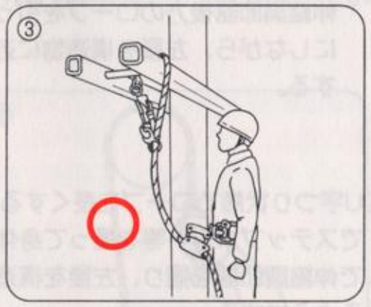
１本つり使用の場合

①左手で伸縮調節器を握り、右手でロープを引き出す。（左きき用製品では、右手で握り左手で引き出す。）

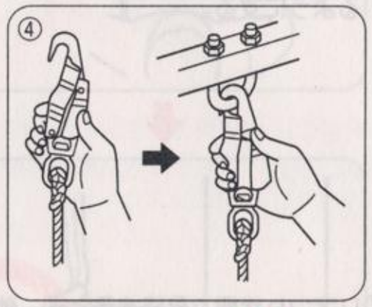
②主フックの取付対象物は、外れたり抜けたりするおそれがなく、墜落阻止時の衝撃に十分耐えられる堅固なものを選ぶ。



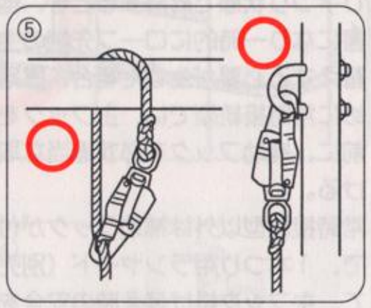
③主フックの取付位置は、腰より上のできるだけ高い位置で、墜落阻止時に構造物や床面に激突しない箇所を選ぶ。



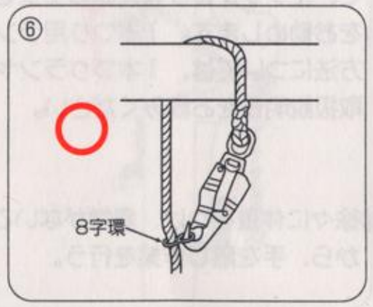
④主フックは、安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、取付対象物に掛けて閉じた後、外れ止め装置が確実に閉まっているか確認する。



⑤主フックは墜落阻止時にフック本体がねじれて変形したり、外れ止め装置・安全装置に荷重がかかったりしないように、正しい方法で取付対象物に掛ける。



⑥まわし掛けをする際、8字環が付いている製品では主フックを8字環に掛けて使用する。

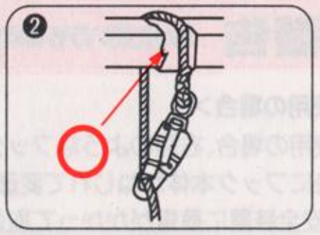


⑦主フックを取付対象物に掛けた状態で作業を行う。

⚠危険　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

❶ロープの取付対象物は、抜けたり外れたり、墜落阻止時の衝撃で壊れたりする可能性のあるものは避ける。

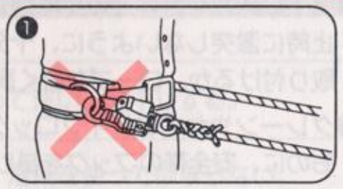
❷ロープが切断されるおそれがあるので、使用中及び墜落阻止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てるなどして、直接触れないようにする。



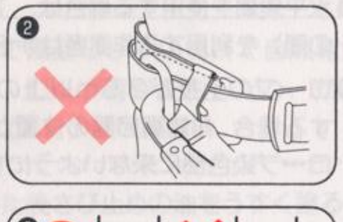
⚠警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

＜U字つり使用の場合＞

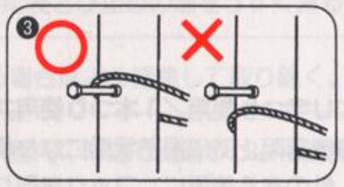
❶フックをD環に取り付ける際に、フック開口部が外側になるように掛けると、外部からの力によって開口しD環から外れる可能性があるので、絶対にしない。



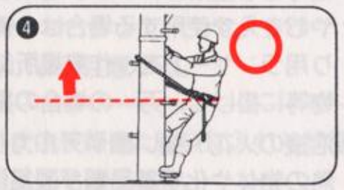
❷フック・伸縮調節器をD環・角環に取り付けるときに、ベルト押えや胴ベルトの端・作業服等が巻き込まれないようにする。



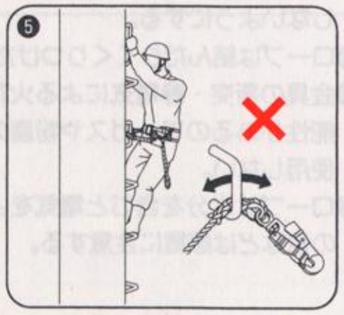
❸ロープは突起物等があり滑り落ちない箇所にU字つりする。



❹電柱や構造物などにU字つりしたロープの位置は、装着した安全帯のベルトの位置より高くなるようにする。



❺U字つり状態で作業又は昇降するとき、主フック側のさつま編み込み部を対象物に対して左右に「しごく」と編み込み部が抜ける恐れがあるので、そのような動きはしない。

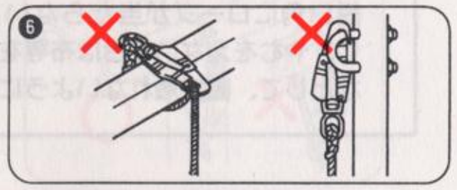


使用方法

⚠警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

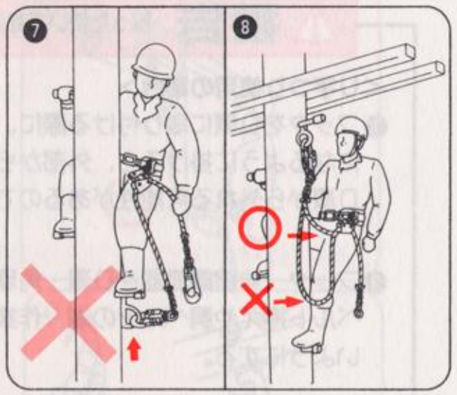
＜1本つり使用の場合＞

❻1本つり使用の場合、右図のようなフックの掛け方は、墜落阻止時にフック本体がねじれて変形したり、外れ止め装置・安全装置に荷重がかかって取付対象物から外れるおそれがあるので、絶対にしてはならない。



❼フックを腰より下の位置に取り付けてはならない。取付位置が低いと墜落阻止時の衝撃が大きくなる。

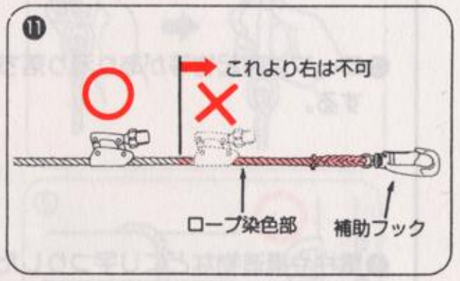
❽直下の床面や物体との距離が短い場所では、墜落阻止時に激突しないように、十分高い位置にフックを取り付けるか、ロープを短く調節して使用する。



❾クレーンやセイフティブロックのフック等移動するものに、安全帯のフックを掛けて使用しない。

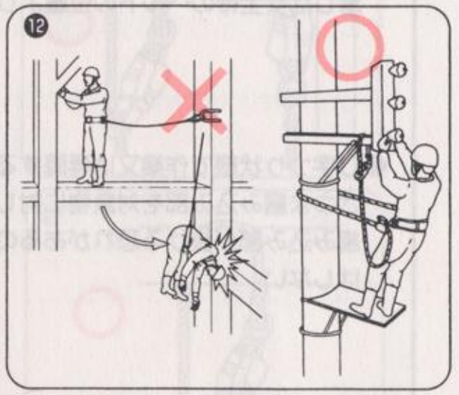
❿水平親網を使用する場合は、1スパン（支柱と支柱の間）を利用する作業者は1名とする。

⓫ロープの全長が2.5m以上の製品を1本つり使用する場合、伸縮調節器の位置が主フックと反対側のロープ染色部に来ないようにする。



＜U字つり使用／1本つり使用共通＞

⓬墜落阻止時に振子状態になり構造物に激突する可能性のある箇所に、フックを取り付けて使用しない。やむをえず使用する場合は、補助フック又は1本つり用ランヤードを、作業場所にできるだけ近い構造物等に掛けて、万一の場合の振子状態発生を防ぐ。



⓭溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。

⓮ロープは結んだりくくりつけたりして使用しない。

⓯金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性があるので、ガスや粉塵の濃度が高い場所では使用しない。

⓰ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。

⚠注意 安全にお使いいただくためにお守りください

❶ロープを引きずらない。
❷ロープをねじって使用しない。
❸シノウ等工具類はベルトの内側に直接差し込まない。

6. 保守・保管

1 ベルト・ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。

2 ベルト、ロープに塗料が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。

3 ベルト、ロープが水などにぬれた場合は、屋内の常温で風通しがよい場所で自然乾燥させる。（ストーブ・熱風等による強制乾燥は、ベルト・ロープ等が変形したり、焼き傷がついたりするおそれがありますので、避けてください。）

4 金具類が水などにぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後さび止めの油をうすく塗る。

5 金具類の可動部は定期的に注油する。砂や泥が付いている場合はよく掃除して取り除く。

6 安全帯は、直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の常温で風通しがよく清潔な場所に保管する。

7 子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。

8 新品の安全帯でも、使用せずに長期間保存する場合は、必ず内装箱または袋に入れた状態で、かつ上の6、7の内容に特に気を付けて、良好な保管状態を確保する。

7. 点検・廃棄

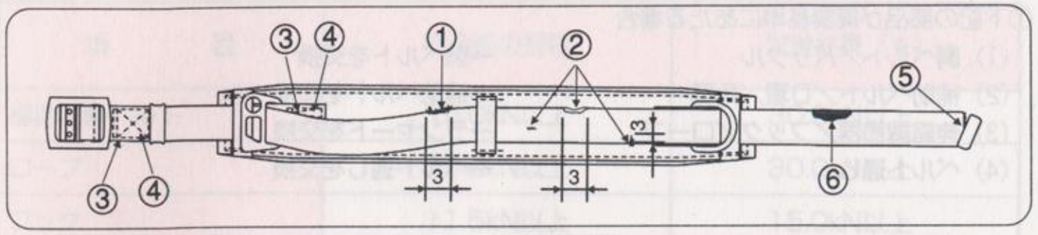
⚠警告 安全にお使いいただくためにお守りください

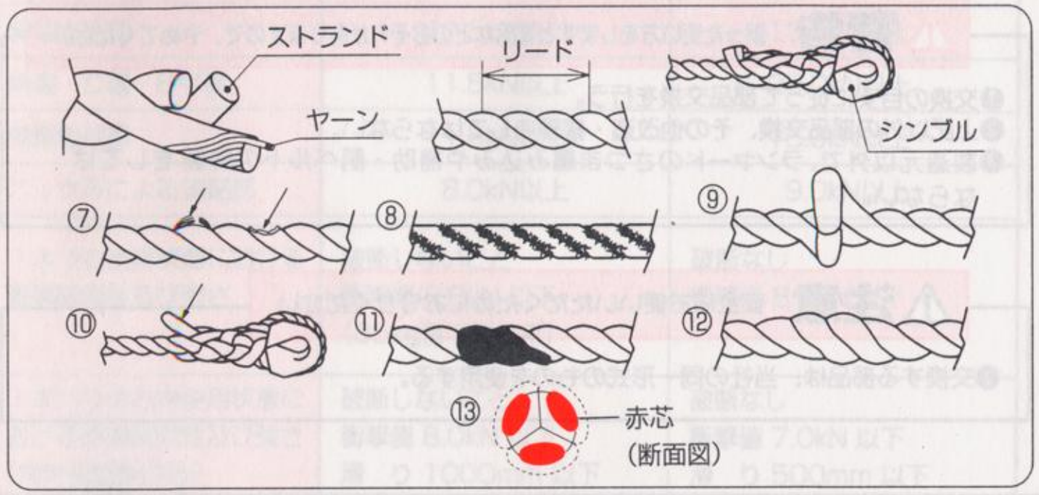
❶安全帯は使用前及び定期的に点検し、下の安全帯点検チェックリストの廃棄基準に当たる部分があれば、廃棄して新しいものと取り替えるか、部品を交換する。
その際は必ず、使用開始年月ラベル（〔9.交換の目安〕参照）に使用開始年月または交換年月を記入する。
❷少なくとも1ケ月に一度は、下のチェックリストに従ってより詳細に点検を行う。
❸作業中に安全帯に異常を感じたら、直ちに作業を中止し、点検を行う。
❹一度でも大きな衝撃を受けた安全帯は、外観に変化がなくても廃棄する。
❺シグナルロープを使用している製品は、赤芯が見えたらすぐにロープを交換する。

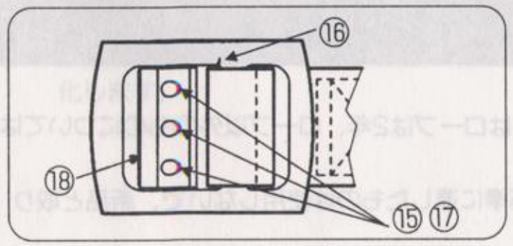
〈安全帯点検チェックリスト〉

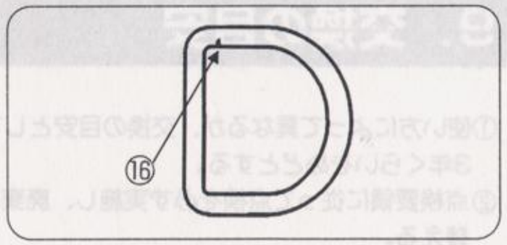
点検部分	点検項目	廃棄基準	
ベルト	摩耗・擦り切れ	3㎜以上あるもの	①
	切傷・焼傷・溶融	3㎜以上あるもの	②
	縫い付け部分	ゆるみのあるもの	③
	縫い糸	切断されているもの/摩耗・擦り切れの激しいもの	④
	先端止め金具	変形・脱落しているもの	⑤
	薬品・塗料等	薬品が付着し変色したもの/塗料が付着し硬化したもの	⑥
ロープ	切傷・焼傷・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの	⑦
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの	⑧
	キンク	キンク（よじれてコブ状になること）しているもの	⑨
	シンブル	脱落しているもの	
	さつま編み込み部分	抜けているもの/ゆるんでいるもの	⑩
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの/塗料が付着し硬化したもの	⑪
	変形	形崩れしているもの/著しく縮んでいるもの	⑫
	赤芯露出(シグナルロープのみ)	赤芯が露出しているもの	⑬
金具類（バックル、D環、角環、8字環、フック、伸縮調節器）	変形	変形が目視でわかるもの バックルの締まり具合の悪いもの フックのはずれ止め装置の開閉作動の悪いもの 伸縮調節器の作動が悪いもの	⑭
		フック・バックル・伸縮調節器のリベットのカシメ部にガタ・変形のあるもの	⑮
	摩滅・傷	深さ1mm以上の傷があるもの/わずかでもき裂があるもの	⑯
		フック・バックル・伸縮調節器のリベットのかしめ部が1/2以上摩滅しているもの	⑰
		バックルとベルトの接合部が摩耗し、ベルトがゆるむもの	⑱
		フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの	⑲
	さび	全体にさびが発生しているもの	
	回転部分	フック本体と回転後部に0.8㎜以上のすきまがあるもの	⑳
	バネ	フック・バックル・伸縮調節器のバネが折損・脱落しているもの/動きの悪いもの	
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料等が付着し、ふき取れないもの	

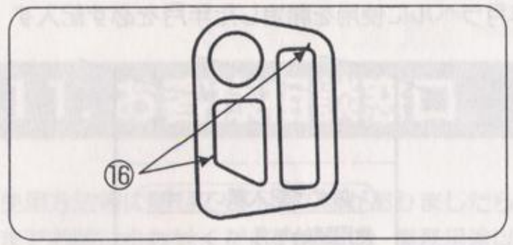
（図は一例を示す）

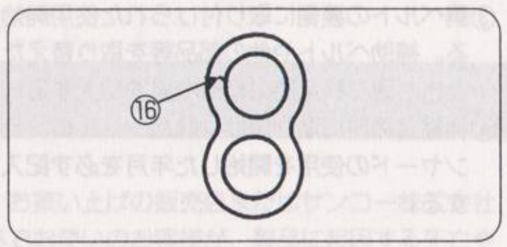


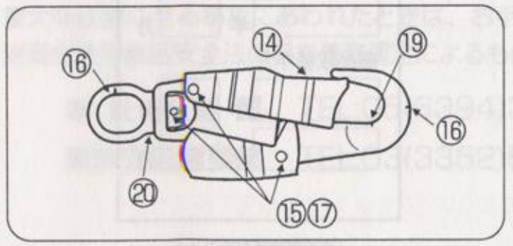


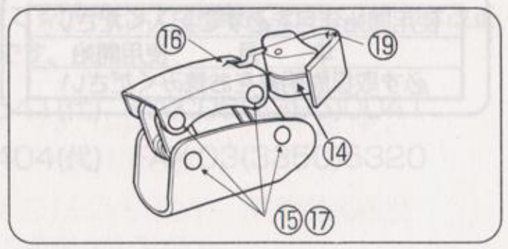












8. 部品交換

①下記の部品が廃棄基準にあたる場合

(1) 胴ベルト／バックル	→胴ベルトを交換
(2) 補助ベルト／D環／角環	→補助ベルトを交換
(3) 伸縮調節器／フック／ロープ	→ランヤードを交換
(4) ベルト通し	→ベルト通しを交換

⚠警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

❶交換の目安に従って部品交換を行う。
❷上記以外の部品交換、その他改造・修理をしてはならない。
❸製造元以外で、ランヤードのさつま編み込みや補助・胴ベルトの縫製をしてはならない。

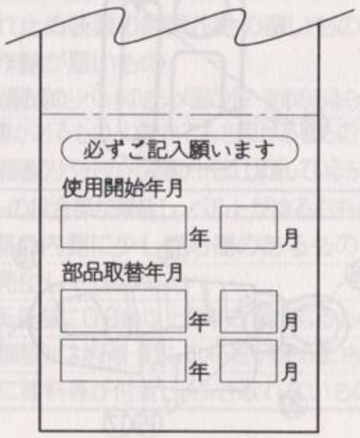
⚠注意 安全にお使いいただくためにお守りください

❶交換する部品は、当社の同一形式のものを使用する。

9. 交換の目安

①使い方によって異なるが、交換の目安としてはロープは2年、ロープ以外のものについては3年くらいをめどとする。
②点検要領に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取り替える。
③胴ベルトの裏側に取り付けられた使用開始年月ラベルに使用を開始した年月を必ず記入する。補助ベルトや他の部品等を取り替えたときも取り替え時の年月を必ず記入する。
④伸縮調節器に貼り付けせれたシールに、ランヤードの使用を開始した年月を必ず記入する。

使用開始年月を必ずご記入ください
年　月　使用開始
必ず取扱説明書をお読みください



（使用開始年月ラベル）

10. 各部の強さ

項　　目	安全帯の規格	試験結果（※）
補助・胴ベルト	15.0kN以上	30.0kN以上
ロープ	19.0kN以上	30.0kN以上
フック	11.5kN以上	15.0kN以上
伸縮調節器	11.5kN以上	13.0kN以上
角環・D環・8字環	11.5kN以上	20.0kN以上
環類取付部	11.5kN以上	15.0kN以上
バックルによる連結部	8.0kN以上	9.0kN以上
1本つり使用状態における衝撃吸収性及び強さ	破断しないこと 衝撃値 8.0kN 以下 (85kg落下体使用)	破断なし 衝撃値 8.0kN 以下
1本つり逆方向使用状態における衝撃吸収性及び強さ（常時接続型のみ）	破断しないこと 衝撃値 8.0kN 以下 滑　り 1000mm 以下 (85kg落下体使用)	破断なし 衝撃値 7.0kN 以下 滑　り 500mm 以下

（※）試験結果は新品時における社内試験値です。使用による摩耗・紫外線暴露などで経年劣化します。

11. お客様相談窓口

使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店またはサンコー株式会社までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。これは改正消費生活用製品安全法の報告義務規定によるものです。

本社営業部　TEL:06(6394)3541(代)　FAX:06(6395)0041
東京支店営業部　TEL:03(3352)5404(代)　FAX:03(3350)5320